

Human capital and SME growth: the mediating role of reasons to start a business

【要約】

人的資本は、中小企業の成長にとって重要な要素であると文献で十分に議論されてきた。この論文では、能力、意思と努力、目標の連動の論理、媒介モデル、およびフランスの中小企業 46,412 社のデータに基づいて、起業の理由が企業の成長と中小企業のオーナー経営者の人的資本（具体的な人的資本と一般的な人的資本の区別）との関係を媒介するという証拠を発見した。

【感想】

この論文の面白い点として、起業した理由がその後の企業の成果にどのように影響をし続けているのかについて研究している点にある。（人的資本とその後の中小企業の成長との関係に対する起業理由の媒介効果を検証する。）

起業した理由について大きく 4 点分かれる（1）製品や市場に関する新しいアイデアがあった、（2）独立したかった、（3）起業家精神があった、（4）成功した起業家が身近にいた、の 4 つ。これらの選択肢をダミーとして符号化することで、4 つの起業理由（それぞれ、「新しいアイデア」、「独立」、「企業」、「側近」）と定義していた。

人的資本の中でも具体的な人的資本（過去の自営業の経験、同種の産業における過去の自営業の経験、経営者としての経験）、一般的な人的資本（学位）の 2 種類に分かれており、興味深かった。

そして、分析を行ったところ、3 つの理由（新しいアイデアの開発、独立したいという願望、企業への願望、側近からの刺激）が人的資本と中小企業の成長との関係に影響を与えている事がわかった。

また、新しい学びとして、この論文では、雇用成長率を企業の成長と置き換えて使用されている。その理由は、変動性が低い、売上高成長率と関連性が高い為である。今後の論文執筆に役立つかもしれない。